

ぼくの名前

ぼくには、二つの名前があります。一つは、生まれた時に両親が付けてくれたベトナムのフィという名前、もう一つは、小学校に入る前に付けてくれた日本の秀樹ひできという名前です。ぼくは、どちらも気に入っています。

生まれて間もなく日本にやって来たぼくは、ほ育所に入りました。ほ育所ではみんなが、ぼくのことをフィとよんでいたの、ぼくの心や体の中には、フィという名前がしみこんでいました。

小学校に入学する前に、ベトナム人が一人かもしれないと両親が心配して、日本の名前をつけました。

ぼくは、小さかったから、なぜ二つの名前ができたのか考えてもみませんでした。ずっと日本の名前であればれていると、だんだんその気になっていきました。でも、

「どうして名前が変かわったの。」

と友だちに聞かれた言葉が、心にひっかかっていました。



入学してからも、両親が心配するような一人ぼっちになることはありませんでした。

二年生からは、ベトナムのお祝いの時にひろうされるムーラン（ベトナムのししまい）のしっぽに入りました。ムーランは、ベトナム人のじまんです。そのムーランに入ることは、ベトナム人の喜びでした。そんなぼくのすがたを見て、お母さんは、なみだぐんでいました。

家に帰ってからお母さんが、

「フィ、今日は、ベトナム人としてどうとムーランをおどるあなたをじまんに思ったよ。フィというのは、ベトナム語で明るいという意味なんだよ。わたしたち家族はふるさとをはなれなければならなかったけれど、あなたにそんな家族をてらす希望の光になってほしいという願いをこめてつけたんだよ。」

と言ったので、ぼくはむねが熱くなりました。

三年生になってからぼくは、両親が心をこめてつけてくれたベトナムの名前にもどすことに決めました。

この名前にもどってからは、ぼくの中のベトナム人としてのほこりがわきあがってきました。

ぼくは、フィという名前を大切に生きていきたいと思っています。

